

2025 年度活水女子大学卒業式祝辞

卒業される皆さんおめでとうございます。また保護者の方々にもご列席を賜り心から感謝申し上げます。大学在学中は世界を揺るがす歴史的出来事が起きた時期でした。新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵攻、パレスチナ紛争の激化、相互関税、異常気象、世界的なインフレなど。皆さんの卒業後の仕事に直結する最大の出来事は生成AIの社会への浸透です。

専門スキルが陳腐化、定型業務が自動化され、個人の仕事のおおくがAIでの代替が可能と予想されています。すでにスマホはAIなしには機能しません。寄り添い、時には励まし、素早く回答し、助言してくれ重宝します。それと同時に、漫然とした不安が残ります。それは自分の頭で考えないことが無意識に習慣になることへの不安です。

AIは企画書、年間計画、分析と提案など効率的に短時間で出力してくれます。時には「もしよろしければ〇〇分析をしてみませんか」など心をくすぐります。しかしAI浸透のおかげで人間は即座の返答や膨大なデータ・情報だけで人間らしく生きることができないと肌感覚で判りつつあります。それは自分の身体性が機械にない人間の人間らしい生き方だと気づいたからです。またAIの「フィルター」を通した見方・考え方だけになる世界は、対人関係も危うくします。AIの文書や提案が沢山送られてくる日常を考えると、そのようなAI添付ファイルを送ってくる人がどれだけ共に一緒に動いてくれるのか不安に感じたことはないでしょうか。

能力、業績、努力に基づいて社会的地位や報酬を配分する「能力主義・功績主義」(メリトクラシー(meritocracy))は社会だけでなく学校教育でもこれまで広く受け入れられてきました。能力に応じた報酬・評価は平等であり公平という考え方がこの底辺にあります。しかしそれが社会で格差を生み、決して公平ではないことは明らかになりつつあります。さらに人間の能力の一部をAIが代替することで人間の能力の本丸ともいえる言語・ことばまで入り込んできたことは能力主義という教育の在り方への大きな挑戦になりました。

小学校以来の教科書、テストや受験、偏差値など批判はあるものの、個人の能力を計り高める一般に受け入れられた教育上の仕組みでした。一方不登校の増加や退学は個性を評価しないこれまでの教育の構造的な疲労が最近目立っています。

「探求」の手法は最終的な答えでなく対話とそのプロセスを通して「考える」を目的とした新しい試みです。人間の集合体、社会で生きる「人との対話」はAIの登場でむしろその価値が見出されています。大学までの教育、そして卒業、就職、その後の生活について何をするか、「なぜそうするのか」という生きる意味や理由については、対話や探求が一人ではない人生には必要です。

日本のクリスチャンで内村鑑三という人がいました。彼は人生の意味についてこのように話しました。先ずはお金を儲け社会に役立つこと、それがむりなら事業を起こして社会に貢献すること、それが無理なら思想を残すこと。でも「それもできない自分は無用なのだろうか」と考える人も多いかもしれません。

内村はそうではないと言いました。後世に残す誰にでもできる最大の遺産（レガシー）がある、「それは勇ましい高尚なる生涯である」と語りました。

「勇ましい」とは誠実に信念をもち歩む、逆境や不義に対して恐れず立ち向かう姿勢（レジリエンス）、

「高尚なる生涯」とは自分中心でなく誠実、正義を追求する他者と共に生きる人生であろうと思います。

勇ましい高尚なる生涯をおくることはAIが台頭する今日でも、リベラルアーツの学問が目指す自由で奴隷状態から解放された探求を続ける生き方と重なります。

卒業は生きる意味の探求、学びの旅路となるでしょう。そこには新たな広い視野がひろがります。皆さんのこれからに豊かな恵みと神さまからの導きがありますように祈り、祝辞といたします。

2026年3月13日

活水学院 院長 湯口 隆司